〔寛永諸家系圖傳九〕松平

主殿頭忠房、家紋丸の内に開扇、

〔寛永諸家系圖傳二十四〕丹羽

家紋、九本骨の檜扇、

〔寛永諸家系圖傳九十七〕淺羽

家紋、十二本骨扇に日の丸、或は菊、

〔明良洪範續十三〕正綱○長澤松平ノ家紋ハ、浮線綾ノ三蝶ノ舞テ、八重菊ヲ吸フ形也、然ルニ伊豆守○信綱養子ノ後、右衞門大夫實子出生シケル、後年豆州ニハ段々御取立、養家ヲバ右ノ實子ニ相續仰付ラル、是松平備前、守家也、豆州ヲバ別段ニ成サレケル故、備前守方ハ家元ナレドモ、時ノ勢ニテ伊豆守總領家ノ如クニ有シ故、家人ドモ、ヤヽモスレバ爭ヒノ事有ケル、右ニ付、豆州ノ紋所ハ、三蝶ヲ扇子ニカヘ、開キタル扇ヲ用ヒラル、之ハ最初扇ヲ開キシヨリ、立身有シ故事ヲ含ミ、養家ノ三ツ蝶ニ准ジ、三ツ扇ヲ付ラレシニヤ、

〔葵御紋考〕紀伊殿庶流松平左京大夫にては、三鍬形を以て、神君○德川家康より讓られ給へる御紋也とて、殊に重く取扱はれ、家士といへ共、故なくしては猥に賜はらず、此御紋は、神祖南龍君江、國祖輕宣卿、御咄の時、或夢に、織田右府、豐臣太閤、予と三人、一席に天下の事務を論せし時、各鍬形の兜を著せしかば、汝忘るゝ事なかれと、上意より附傳ふる所と云々、

〔寛永諸家系圖傳二百八十五〕大草

家紋、十文字の轡、

〔屠龍工隨筆〕梶原が紋は、矢筈なりと云ふに、繪に書たるなどを見れば、矢の羽を二ツならべて付たり、武士の紋は、もと幕の紋にて、機の具のりうご、ちきり或はくぎぬき、つるまきなど、手輕きも